

3 学習指導の実践

(1) 学習過程

指導する立場からは指導過程といい、学習する立場からは学習過程といいます。狭義には、単元（題材）の指導計画の展開過程を意味し、さらに狭く、1単位時間の「導入－展開－終末」の過程をいう場合もあります。

適切な学習過程を設定した学習指導を進めるためには、次のことに留意する必要があります。

【授業づくり 3つの基本】

- ① 本時の目標を踏まえた学習課題を設定する。
- ② 目標を実現するためにふさわしい展開をする。
- ③ 目標の実現の状況を評価し、次の指導に生かす。

【基本的な1単位時間の授業展開例とチェックポイント】

過程	教師の働きかけ	チェックポイント
導入	<ul style="list-style-type: none"> ■ 本時の課題を分かりやすく示す。 ○ 本時の課題を板書する。 ○ 課題解決の見通しをもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本① □ 課題は本時の目標に合っていますか？ □ 児童生徒が本時の課題を意識できるよう見やすく板書していますか？
展開	<ul style="list-style-type: none"> ■ 目標を実現するために、 ○ 読む、書く、話す、聞く ○ 一人で考えたり、発表したりする ○ 話し合いをする などの学習活動を適切に位置付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本② □ 学習活動の意図が明確ですか？ □ 考えを広げすぎて、収束することが難しくなっていないですか？
終末	<ul style="list-style-type: none"> ■ 課題に正対するまとめをする。 ○ 本時のまとめを板書する。 ■ 学習内容の定着状況を確認し、確実に定着させる。 ○ 本時の学習内容に応じた問題に繰り返し取り組みさせる。 ○ 補充的、発展的な問題を取り組ませる。 ○ 本時の学習を振り返らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本③ □ まとめは本時の課題に合っていますか？ □ 目標の実現の状況を評価していますか？ □ 評価を踏まえ、定着を図る指導をしていますか？

授業を支える5つの確認

- ① 返事や発言、聞く姿勢、ノートの書き方など学習規律を確立しましょう。
- ② 児童生徒一人一人に目を配りましょう。
- ③ 掲示物を整え、落ち着いた教室環境にしましょう。
- ④ 辞書や学習資料をそろえましょう。
- ⑤ 授業の開始と終了の時刻を守りましょう。

(2) 学習形態（ペア・グループ学習等）の工夫

児童生徒一人一人の特性等に応じた指導を行うためには、授業の目的に合わせて、効果的な学習形態を工夫しながら指導に当たることが必要となります。そのためには、学習の目的や児童生徒の実態に応じて、一斉学習やペア・グループ学習、個別学習などを組み合わせることが大切です。

学習形態を工夫することにより、個の学習を成立させたり、深めさせたりするとともに、互いに学び合い、高め合う学習が期待できます。

▶ 学習形態の種類

学習形態は、次のように類別することができます。

種類	特徴	配慮事項
一斉学習	<ul style="list-style-type: none">・ 共通の課題や問題点を意識付け、共通の知識や技能を身に付ける。・ 多様な考えの交流により、質の高い考えや見方に達する。	<ul style="list-style-type: none">・ 一人一人の習熟の程度、学習の速度などに配慮する。・ つまずきや解決方法の特徴など個人の学習状況を把握し、次の学習に生かす。
ペア・グループ学習	<ul style="list-style-type: none">・ ペアやグループなどの小集団の話しやすい雰囲気積極的に発言することができる。・ 交流により、新しい考えを生み出したり、自分の考えを明らかにしたりする。	<ul style="list-style-type: none">・ 活動内容や発達段階に応じて人数を調整する。・ 一部の児童生徒の意見のみが強調されないように配慮する。・ 他のグループの話合いや研究結果などを共有化するようにする。
個別学習	<ul style="list-style-type: none">・ 一人一人の能力や適性、興味・関心等の違いに応じた学習により、高い学習効果が期待できる。	<ul style="list-style-type: none">・ 適度に対話や交流の場面を設ける。・ 一人一人に応じて適切に指導する。

(3) ティーム・ティーチング

児童生徒の興味・関心を生かしたり、学習の仕方の特性等に応じたりするなど個に応じた指導を一層推進するためには、複数の教員によるティーム・ティーチングが有効です。

そのためには、児童生徒の側に立ち、学習集団を固定することなく弾力的に編成するとともに、教師間の分担や指導の意図を明確にすることが大切です。

ティーム・ティーチングは、指導計画や学習指導案及び教材・教具の作成などの段階から始まります。教師間の人間関係や信頼関係がティーム・ティーチングを支える基盤となります。

(4) 習熟度別指導

児童生徒一人一人に学習内容を確実に定着させるために、個に応じた指導方法や指導体制を工夫改善することが大切です。その一つとして、児童生徒の習熟の程度に応じた指導を取り入れることが考えられます。

習熟度別指導は、各教科等の授業において、例えば、習熟の程度に応じて、1つの学級を2つのグループに分けたり、2つの学級を3つのグループに分けたりして授業を行う形態・方法です。習熟の程度に応じた指導を行うことにより、児童生徒一人一人に対してきめ細かな指導を行うことが可能となり、指導の効果を高めることが期待できます。

ポイント

【実施する時期や内容】

- 単元や1単位時間のいずれの指導過程においても、多くの児童生徒につまずきが生じると考えられる学習内容を指導するときに習熟度別指導を行うことが効果的です。

【期待できる効果】

- 児童生徒の「もっと分かるようになりたい」という思いや、保護者の「児童生徒をもっと伸ばしてほしい」という願いに応えることができます。
- 学習集団の学習内容に応じた教材・教具や進度で学習活動を行いやすく、個に応じた指導の観点から大きな学習効果を期待できます。
- グループで学習活動を行うなど、児童生徒が主体的に行う学習活動を設定しやすくなります。
- 児童生徒自身が自分に合った学習コースを選択することで、児童生徒の学習目標に対する自己評価の能力を高めることができます。

〈教師の手立て〉

◎ 児童生徒による自己評価やガイダンスを行い、学習コースを児童生徒が適切に選ぶことができるようにします。

◎ 複数の学習コースを設定し、きめ細かな指導を行います。

◎ 一人一人の習熟の程度に応じた指導を行います。

〈児童生徒の声〉

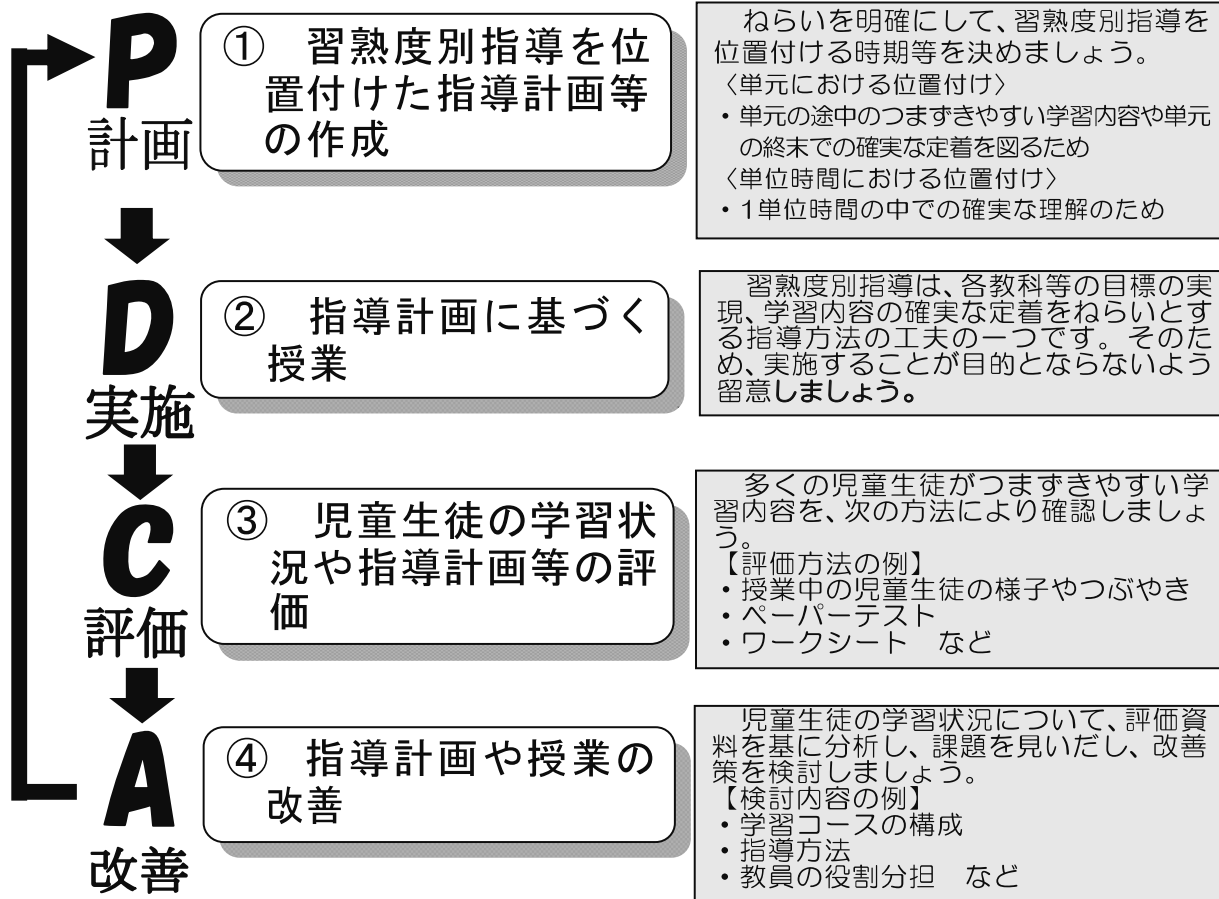
○ できそうな問題や学習課題を自分で選べるのでやる気ができます。

○ 少人数なので、先生に質問しやすいです。

○ 少し難しい問題にも、じっくり挑戦することができます。

習熟度別指導の進め方

習熟度別指導は、一人の教師だけで進めるものではありません。マネジメントサイクルを生かして、全ての教師が協力して推進するとともに、児童生徒の学力や学習状況、目標の到達状況に応じて、常に指導の改善充実を図る必要があります。



習熟度別指導で工夫すること

- 児童生徒が主体的に学習コースを選択できるようにするための工夫
 →単元の導入で指導計画を示したり、十分なガイダンスを行ったりして、児童生徒に学習の見通しをもたせます。また、レディネステストや、これまでの自己評価やテストなどを活用し、児童生徒の学習状況の把握に努めます。
- 学習評価を行うための工夫
 →学習コースが異なっても目標や評価規準は変わりません。身に付ける力を全ての児童生徒に確実に身に付けられるように指導しましょう。また、一斉授業より、児童生徒の人数が少なくなるので、よりきめ細かに学習状況を把握し、指導に生かすようにしましょう。
- 保護者の理解を得るための工夫
 →ねらいについて、全ての教師で共通理解を図りましょう。また、学校だよりや懇談会、家庭訪問などを活用し、当該学年だけではなく、全学年の保護者に説明するようにしましょう。

(保護者に伝える内容)

- ・導入する理由
- ・期待される効果
- ・指導内容、指導方法の工夫の具体
- ・導入後の児童生徒の声 など